



新市地域らしさ価値4 (ブランディング価値)

世界をつなぐ和らぎ交流都市

—「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか—

第2部で紹介した具体化方針、「自然・歴史・文化を活かした交流の地域となること」に基づく「新市地域らしさ価値 (ブランディング価値)」として策定したのが、『世界をつなぐ和らぎ交流都市 ～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～』です。

ここには、私たちの地域が誇るべき歴史と伝統を持ち、交通の要衝でもあることから、それらを資源に日本・世界の人々と交流し、相互に高めあいつつ調和していこうという思いが込められています。

具体化方針に基づく調査結果の整理

Want



-期待・希望・ありたい姿-

- ・「ものづくり」エグジビション都市を目指す
- ・新潟県の中心になりたい
- ・滞在型の観光資源
- ・豊富な資源を活かしたフィールドミュージアムづくり
- ・自然環境保全と都市機能充実
- ・それぞれの文化を結びつけてより大きな価値を生む
- ・住民主導と行政による支援
- ・ブランド食・観光・交流拡大
- ・観光資源として全国発信



ありたい姿

Will



-実現すべき事柄-

- ・地域に残る文化を結び、新たな文化を育むまち
- ・各地域の文化を尊重し、結びつけて保全活用
- ・誠実な率直性と確かさ
- ・行政と住民の役割割り分担
- ・各地域の文化・特性を活かす
- ・独自の魅力を増進する
- ・長岡独自の交通、都市機能ネットワークの構築
- ・高い交通利便性を活かしたまち
- ・癒しのまち
- ・美しい河川、森林を次世代に残す
- ・豊かな地域の個性をつなぎ、長岡らしさをつくる
- ・おいしい水と食で来訪者を迎えるまち
- ・「食」をキーワードとした地域の活性化
- ・山と里と都市の調和
- ・身近な自然がうれしいまちづくり
- ・山のみどり(癒し)と生活のみどり(うらおい)が調和したまちづくり
- ・多様性と個性を大切にすまち
- ・交通網の再構築
- ・グローバルな中に、伝統的な教えも大切にすまち
- ・地域文化と人的資源の活発な交流が見られるまち
- ・地域文化の保全と活用を図る仕組みとルートがあるまち
- ・小さいながら効率的な行政運営の実現
- ・官民協力の時代にあった斬新な行政サービスの展開
- ・市民が主役への意識改革
- ・伝統と実績を広くアピール
- ・多くの分野、機関が連携するネットワークの構築
- ・食文化・食による地域活性化
- ・商店街の再生に向けての空店舗の有効活用
- ・各地の多様な価値を尊重する観光開発
- ・豊かな自然の保全と積極的な活用

強み

Can



-現状の強み-

- ・多様な産業と郷土文化が息づく
- ・個性的な地域、人と自然が共生してきた歴史
- ・長岡地域の力は豊かな資源
- ・古き良きもの
- ・恵まれた道路交通網と観光資源
- ・それぞれの地球文化資源
- ・住民の自主的な動き

「新市地域らしさ価値(ブランディング価値)」は、地域の多くの人々の
<まちの将来に対する声・思い>や<地域の強み>から導き出された、未来に向けて共有し、
高めていくべき価値といえます。

社会的背景・環境

- 文化立国への取り組み、世界に向けての文化を資源とする産業の可能性
- 日本文化のアイデンティティへの関心の高まり
- 地域文化・郷土文化再評価の気運
- 滞在型観光の隆盛
- ありのままの自然・文化の評価の高まり
- 「癒し」ブーム
- 人間らしい、余裕を持った「スローフード」「スローライフ」の提唱
- おいしいもの、体に良いもの(食文化)や日本酒への関心の高まり
- 将来的な環日本海交流の拡大
- 北陸新幹線の延伸による近畿圏との時間短縮
- (時代的閉塞感のなかでの)近世史への関心の増加



新市地域らしさ価値4

(ブランディング価値)

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

長岡地域は古くから交通の要衝として栄え、様々な人々や物資が行き交った地である。長岡には、他地域との交流と融合の歴史がある。豊かな自然を背景にした各地の文化は独自性があり、日本各地、世界の人々をつなげる受信力と発信力を内包している。一方で長岡は戦火に遭いながらも、人の営み(ものがたり)によってつながれてきた心の歴史都市である。長岡地域が志向する交流とは単なる活況ではなく、精神文化や人間性が生み出す落ち着きや温かさのある和らぎの交流である。

<行動や姿勢>

新市各地の「技」「食」「人」を地域資源として活用・連携し、日本・世界の人や文化が交流するまちを推進する。

新市各地が、持ち味の競演を行いながら、より高水準の交流と融和の地域(競和国)を目指す姿勢を明らかにする。